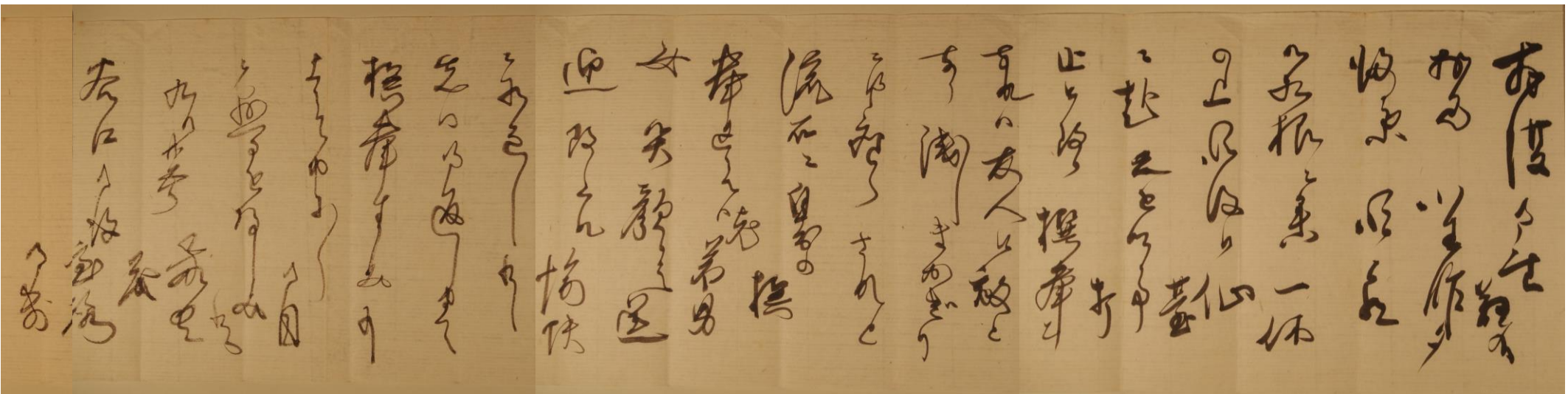


昭和27年9月25日付 谷口直枝子宛吉田茂書簡



【釈文】

拝復、御書難有

拝見、小生昨夕

帰京、明朝

箱根ニ参一休

の上、明後日仙台

ニ赴之を以而打

止と致候、撰挙と

なれハ友人も敵と

なり、浅しきかぎり

ニ御座候、されと

流石ニ自分の撰

挙区ニてハ、老若男

女笑顔ニて送

迎致しくれ、愉快

ニ相過し候、

先ハ御返しまて、

撰挙すみ候

上ニて、ゆるく御目

ニ懸るをたのしみ候、

敬具

九月廿五日

茂

谷口御後室様

御前

【書き下し文】

拝復、御書有難く拝見、小生  
昨夕帰京し、明朝箱根に参り  
一休の上、明後日仙台に赴き、  
之を以これつて打ち止めと致そうろうし候、  
選挙となれば友人も敵となり、  
浅いしきかぎりいざそうろうに御座候、され  
ど流石に自分の選挙区にては、  
老若男女笑顔にて送迎致しく  
れ、愉快あいすこに相過あし候、先まずは  
御返しまで、選挙すみ候上  
に、ゆるゆる御目に懸るをた  
のしみ候、敬具

九月廿五日 茂

谷口御後室様

御前

【現代語訳】

拝復、お手紙ありがたく拝見。私は  
昨日の夕方東京に帰り、明日の朝箱  
根に参ってひと休みの上、明後日は  
仙台に赴き、これでもって打ち止め  
と致します。選挙となれば友人も敵  
となり、浅ましいかぎりでございます  
す。けれどもさすがに自分の選挙区  
では、老若男女が笑顔で送迎して  
くれ、愉快に過ごしています。まずは  
お返事まで。選挙が済んでから、  
ゆっくりとお目にかかるのを楽しみ  
ます。敬具

九月二十五日 茂

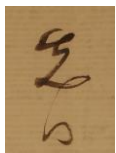
谷口御後室様

御前

## 【吉田茂の手紙に登場する助詞】

吉田の手紙では、変則的に変体仮名やカタカナで助詞が書かれることがしばしばあります。

は (は・ハ・者)



(先ハ) : 16 行目

吉田が助詞として「は」を使う場合には、カタカナの「ハ」をよく用いました。濁音を表記しないことも多くあり、今回の手紙の8行目にあるような「撰(選)挙となれハ」は、書き下すと「選挙となれば」と「ハ」が濁音になります。また、手紙の書きだしに使われる「陳者(のぶれば)」の場合は、「ハ」ではなく「者」でいつも書かれています。このほか、変体仮名として「者」を用いるのは、前回ご紹介した「候得者(そうらえば)」のときです。

に (二)



: 13 行目

古文書では、しばしば「耳」「尔」などが用いられますが、吉田の場合はほとんどが「二」と表記されます。「にて」「にては」は頻出です。

も (茂)



: 8 行目

助詞の「も」には、変体仮名の「茂」がしばしば使われます。吉田の書く「茂」はかなり特徴的で、「江」に似たくずし方をしています。

## 【内容解説】

今回は、昭和27年9月25日付の手紙をご紹介します。この手紙が書かれる少し前の8月28日、第3次吉田内閣で総理大臣を務めていた吉田は、突然の内閣解散に踏み切りました。「抜き打ち解散」と言われたこの解散は、サンフランシスコ講和条約締結後、活発になりつつあった反吉田勢力の動きを封じ込めるためのものでした。

文中には盛んに「選挙」の文字が見えますが、内閣解散後、10月1日の総選挙に向けて、吉田も各地で選挙活動を展開しました。手紙では、「撰挙となれハ友人も敵となり、浅しきかぎりニ御座候、されと流石ニ自分の撰挙区にてハ、老若男女笑顔にて送迎致しくれ、愉快ニ相過し候」とあり、選挙に対する吉田の思いが率直に書かれています。ここで出てくる吉田の「選挙区」は高知県です。実父竹内綱の故郷であった高知県では、温かいもてなしを受けていたことがうかがえます。ちなみに、吉田の演説嫌いは有名で、檀上で演説をしなければならぬときも、「吉田茂です」と名前だけ名乗って終わらせることもしばしば。コートを着たまま演説をしたこともあり、聴衆からヤジが飛ぶと「外套を着てやるから街頭演説です」と答えたそうです。ユーモアのある吉田の一面がうかがえるエピソードです。

なお、10月1日の総選挙では、吉田の率いる自由党は議会の過半数となる240議席を獲得し、10月30日に第4次吉田内閣が成立しました。

※参考文献

麻生和子『父吉田茂』新潮文庫、平成24年(原本は、平成5年、光文社より発行)